令和5年度 第6回東広島市地域公共交通会議 議事録

会議内での発言については、逐語録ではなく要約しております。

1. 日時

令和6年3月22日（金）10：00～

2. 場所

東広島市役所 北館2階（201）

3. 出席者

塚井会長、井上副会長、山口委員（代理：関様）、見崎委員、渡瀬委員、坪内委員、吉田委員、佐久間委員、片山委員、河井委員（代理：森計画課長）、南委員（代理：金森主任）、藤井委員（代理：柴田主査）、大月委員、阪垣委員（代理：沖田課長）、竹江委員（代理：土本次長）、惣引委員

4. 議事次第

1 開会

2 委員報告事項

（1）広島県地域公共交通ビジョンの策定について（広島県地域政策局交通対策担当）

3 報告事項

（1）東広島市都市交通マスタープラン改定版について

（2）志和ホテル交通の運行開始について

（3）地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）の進捗管理について

4 審議事項

（1）令和6年度東広島市地域公共交通会議予算（案）について

（2）東広島市地域公共交通利便増進実施計画の変更について

（3）東広島市都市交通計画の策定状況について

5 その他

6 閉会

委員報告事項（1）広島県地域公共交通ビジョンの策定について

○柴田代理： <資料説明>

○塚井会長：資料「基本方針と施策の方向性」における指標について、交通を取り巻く情勢には例を挙げれば新技術の検討や乗務員不足などがあるが、現況に対して県と

してどう考えているか。また、経営力の強化のため路線を合理化して削減しなければならないが、公共交通で不自由なく移動できるよう利便性を確保していかなければならない、乗務員は不足しているが先進的な取組みをしなければならぬなど、矛盾している条件を両立させなければならない面もある。そういった中でどういう議論の上で県として指標を設定されたのか伺いたい。

○柴田代理：WGにて交通事業者のご意見もいただきながら議論してきた。乗務員不足はすぐには解消困難な問題と考えており、業務の効率化を行いながら乗務員不足に対して手当をしていくということで考えている。自動運転の取組みも利用者の利便性とともに乗務員不足解消を見据えた取組みと見ているので、連携を取っていききたい。

報告事項（1）東広島市都市交通マスタープラン改定版について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長：資料9ページにおいて、市全体として人口減少の状況にあるなかで、市中心部に関しては人口増加が見込まれ拠点性が高くなっていき、それに伴って交通ネットワークもある程度整備が必要になっていくのに対して、郊外が不便になっていく状況にあると思う。中心部と郊外の計画はマスタープランの中ではどのあたりに今後の方針が書いてあるか。

○事務局：東広島市の場合、都市形成への対策と過疎への対策を並行して進めていかなければならないという特性を持っていると考えている。考え方としては、資料29ページ「将来交通計画の方針」として記載している。道路網については、全体的な骨格形成が計画通り進んでいるが、対して、公共交通網は少しずつ衰退してきているというのが事実。当ページ図のように道路形成と公共交通網をレイヤーで重ねることで、交通として弱いところをどうしていくかを交通全体としては考えなければならない。公共交通において、地域拠点とネットワークを考え、それを維持確保していくことで出かけやすい環境を整えていきたいと考えている。

報告事項（2）志和ホテル交通の運行開始について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長：利用者の方に誘い合わせて乗っていただくような仕掛けはあるか。例えば、誘い合わせて乗っていただくと次回乗車1回分無料になるなど。最初に定着するまでが難しいところかと思うので、相乗りの抵抗感を下げるという意味で、乗ってくる人が決まっている状況で誘い合わせて乗ってみるといったことができれば、利用促進としてよいのではと思った。

○事務局：地域の方にも色々な利用促進策を提示した上で、どういった策が一番適合する

か一緒に検討していきたい。

- 塚井会長：本日は志和ホテル交通の運行事業者である八本松タクシーの吉田委員にご出席いただいているので一言いただけたら。
- 吉田委員：予想よりは予約が入っている。タクシーだと思われて、ミーティングポイントでなく家まで行ってくれると混乱されるようなところはまだある。家に近いところで乗降できたり時間の融通がきいたりというメリットをもっと発信して利用促進していきたい。当社としては、電話対応や接客など、当社なので利用していただけるというようなサービスの良さを目指していきたい。

報告事項（3）地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）の進捗管理について

- 事務局： <資料説明>
- 柴田代理：資料「（3）公共交通の満足度」（市民満足度調査による）において、R5 年が過去数年に比べて満足度が上がった理由はなにか。また、資料「（5）移動に係る行政負担の推移」において、ここ 2～3 年でスクールバスの行政負担が増えているが、要因はなにか。
- 事務局：市民満足度調査については、施策の前後を図るモニター調査ではないので、極端に言うと昨日まで広島市などに住んでいた方で西条に移り住まれた方にもアンケートが届いてしまう。そうすると、以前住んでいたところでは 10 分間隔でバスが来ていたところ、30 分、40 分待つようになったという状況下にあることもある。毎年回答者の属性が変わることからすると、満足度の結果の乱高下があり得るところである。ただ、大局で見ると市民満足度のこの数値は全体を映し出しているところではあり、真摯に受け止める必要がある。スクールバスについては、R3～4 年にかけて志和町で志和小学校が開校、河内町で河内小学校が移転し、その分スクールバスの増便があったので、行政負担が増加した。
- 塚井会長：モニター調査までは難しいかもしれないが、居住年数、年齢層（学生か生産年齢か前期高齢者以上か）、居住地がどこなのか（人口が増えている地域か）、などの観点を付けて分析すると実りはあるかと思われる。また、交通に対する満足度をきいているが、施設の立地への評価との切り分けが難しい。施設のほうで逃げて行く、店がなくなったので足を延ばすしかなくなったというパターンがある。そうになると、交通は変わっていないが、施設の立地が変わったために交通の評価が下がるということがあり得る。交通の評価を問われているが行きやすさを回答してしまう。公共交通の路線近くに施設があるか、施設が路線から離れて移転したということがなかったかも分析しておくともよいかと思われる。
- 井上副会長：資料「3（2）③地域公共交通利用者数」において、河内あゆピチふれあい

号はコロナ禍に一回低迷してからR4年にまた数字が回復してきており、「3(4)の公共交通空白地」において、河内町は交通空白地域外人口の割合93.5%と高い数値であるにもかかわらず、「3(3)公共交通の満足度」においては河内地区が他地区に比べて満足度が低いという結果になっているが、要因はなにか。

○事務局：河内町の交通空白地域外人口の割合が高いのは、入野デマンド交通、河内あゆピチふれあい号がカバーしているためである。河内あゆピチふれあい号はスクールバスと兼ねているため、コロナ禍の休校等の影響を受け、利用者数に変動があったと思われる。よって、満足度が低い要因としては、地域公共交通は運行しているが、ルート、ダイヤ、便数等が現状満足いただけるものではないということが考えられる。交通空白地域外人口の割合が高いからといって置いておくのではなく、地域の実情や声を聞いて運行改善等を随時行うことが必要と考えている。

○塚井会長：資料「3(2)③地域公共交通利用者数」において、安芸津海風バスのR3年の利用者数増加要因はなにか。

○見崎委員：安芸津海風バスはR3年に路線バスを海風バスに移行しており、車両の台数も増やしたため、増加したと考えられる。河内のほうも路線バスで通学されていた方が河内あゆピチふれあい号に移行した。乗務員不足の関係もあり、路線や運行ダイヤの見直しで地域の方にご不便をお掛けしている。

○塚井会長：こういった数字を見るときに気を付けないといけないのは、表向き利用者が増えていても、路線延長等があると当然にその分利用者は増加すべきで、丁寧にみていくと、実際は路線が伸びた割に利用者は伸びておらず輸送密度は下がっているということもある。利用者が増えているから大丈夫とは簡単に言えず、丁寧にみていく必要がある。輸送密度だけみればいいのかといわれると、健康に外出していただくことが目的の場合、人数ではなく利用者の方が健康に外出できていれば目的は達成できたということであり、輸送密度が低くても若干差し引いて考えなければならぬ。立てた指標の意味を考えずに数字の上下に引きずられるのは怖いことで、目的に応じて指標を管理しなければならない。

審議事項(1) 令和6年度東広島市地域公共交通会議予算(案)について

○事務局： <資料説明>

○塚井会長：東広島市地域公共交通利便増進実施計画改訂業務と地域公共交通運行改善業務については繰越となるが、適正に手続きされていると考えてよいか。

○事務局：財務規則に則って手続きを行っている認識している。利便増進についてはR6年3月に申請と大臣認定を予定していたが事業者との協議等に不測の日数を要した。運行改善については地元との調整によって来年度実施となった。

○沖田代理：収入の「繰越金」は12,297千円であり、支出の繰越金を足しても同額になら

ないが、他にも繰越金で実施される事業があるのか。

- 事務局：繰越の事業の金額を引いたあとの収入の「繰越金」の161千円だが、本会議体が以前から繰越を行ってきた部分であり、この費用については、支出において運営費である会議費と事務費に割り振って充当している。
- 塚井会長：それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。
- 全員 <異議なし>
- 塚井会長：本審議事項については、合意したものとする。字句等の修正については、会長に一任いただきたい。

審議事項（2）東広島市地域公共交通利便増進実施計画の変更について

- 事務局： <資料説明>
- 事務局： 補足として、資料39ページ「事業の定量的効果」について、黒瀬地区全体として中国JRバスの再編後に利用者数が大きく減っている。この部分についてはH29年度に策定した再編実施計画において、広島電鉄が担う呉方面への路線バスと中国JRバスが担う西条-呉間の路線バスを黒瀬の交通結節点においてうまく接続して効率化を図っていくよう調整しており、現時点では、中国JRバスの利用者数としては呉方面への利用者数を減らした形で数字を出している。ここに広島電鉄の名前が入っていれば利用者数はある程度同等と捉えることができるが、広島電鉄との協議の中で、黒瀬の交通結節点の整備がある程度できてきた段階で利便増進実施計画の中に具体的に記載していくということになっており、現時点では協議を進めている段階である。R6年8月の大臣認定に向けて進めてはいくが、利用状況については随時確認しながら進めていく必要があり、継続的に調整しながら計画の変更を重ねていきたい。
- 塚井会長：資料16ページ後がそのことに関係するページだと思うが、例えば資料36ページだと、再編の結果、春日野あたりは全く通らなくなるということか。
- 事務局： 表現の仕方としてそのように見えるが、それぞれ他の系統でできるだけカバーしていきながら複雑な系統をある程度集約して、わかりやすい運行を目指す。なるべく手当をしながら効率化と利便性を平行させながらやっていきたいと考えている。
- 塚井会長：資料図は必ずしも全体を示している図ではなく、基本的には重複している系統を整理して再編していくということで理解した。
もう一点、乗務員が不足するという事は輸送力自体が希少な資源になってくる。希少な資源を充てるところに利用が集中するように再編していくということで、投入する資源を少なくして効率化を図ると良くも悪くも利便性は下がる。利便性が大きく下がらないよう努力はしているところであるが、全く影響がないということはないという点は本会議委員の皆様においても理解し

ていただきたい。

- 関代理**： 資料 11 ページ「(3) IC カードシステム高度化に対する支援」は具体的には QR コードのことを指しているのか。
- 事務局**： 乗継割引や共通定期券といった仕組みで利便性を高めていくことが必要だと考えており、記載しているものである。具体的に IC カードシステムが何なのかということについては、今後調整していきたい。
- 塚井会長**： 資料 7 ページ、8 ページの路線図も先ほどと同様の考え方で、系統を整理して合理化することができるだけカバーして変わらないように維持を図るという方向性で行っているものか。
- 事務局**： こちらは令和 3 年 4 月に安芸津地域で既に再編事業を実施している完了分のものである。内容としては、系統廃止部分に安芸津海風バスを拡充して利便性を維持していくというところでの再編となっている。
- 塚井会長**： 再編するとバランスが変わる。利便性が変わらないかあるいは若干良くなるどころとそうでもないところが出てくる。5 年くらいの単位で振り返って、どういう変化をしたのか、数字だけを追わずに丁寧に評価しておくことも重要と思われる。
それでは、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。
- 全員** <異議なし>
- 塚井会長**： 本審議事項については、合意したものとする。内容について字句等の修正が発生した場合は、会長に一任いただきたい。

審議事項（3）東広島市都市交通計画の策定状況について

- 事務局**： <資料説明>
- 坪内委員**： 資料 19 ページ「NPO 法人等が主体で取り組む福祉有償運送及び公共交通空白地有償運送」について、ライドシェア等が出てくるのではないかと思うが、これについては市としてどう考えているか。
- 事務局**： ライドシェアについては国のほうで限定的に解禁の動きもあるため、国の運輸政策の動向を注視していきたい。本ページの該当部分はライドシェアとして意味づけるものでなく、地域の交通事業者が担いきれない部分について、こういった制度を活用する場面がくれば活用していくことも必要だと考えている。活用する場合には、輸送の安全性と事業の継続性を担保できるか検討しながら取り組んでいく。
- 塚井会長**： 都市交通マスタープランで物流に言及することはそれほど多くないかと思うが、東広島市でも、物流業者のトラックが道路の規格と合っておらず苦勞されている場所を見る。地域公共交通会議がマスタープランを持つと旅客のほうに話が

寄りがちだが、マスタープランとしてそれで良いか、物流に触れられる部分も考えながら行っていく必要があると思う。

- 事務局： 持ち帰って検討したい。マスタープランの構造化シートの中には「人や物の円滑な流れを促進し…」ということ掲げているところではあるので、局所的な取り組みは難しいかもしれないが全体的な取り組みとしてどのような取り組みが位置づけられるか検討したい。
- 塚井会長： ご意見ないようであれば、本審議事項について本会議にて合意したものとみなしてよろしいか。
- 全員 <異議なし>
- 塚井会長： それでは、本審議事項については、合意したものとする。微小な字句等の修正が発生した場合は、会長に一任いただきたい

以上